

地域通貨導入デザイン手法の開発について

ゲーミング・シミュレーションを用いた導入政策

Development of a Design Method for the Introduction of Community Currencies

吉田昌幸*

Masayuki Yoshida

1. はじめに

本研究は、木質バイオマス熱利用に関わる様々なコミュニティをつなぐためのメディアとしてデジタル地域通貨を位置づけ、それを持続可能な形で導入していくための手法を開発することに目的がある。というのも、2000年代以降様々な地域で導入された地域通貨には、持続可能性という問題が指摘されており、泉・中里（2023）によれば、開始して4年以内に約半数の地域通貨が中止、10年以上稼働した地域通貨は全体の21%である。導入した地域通貨が持続的にしない理由の多くは、財源の問題と地域通貨それ自体の滞留にある。後者の問題については、既に強い相互扶助関係が構築されているコミュニティでは利用されにくいこと、地域内団体間の対立などといった原因が指摘されている（吉田2012）。持続可能性を確保する上で、地域通貨が滞留しない流通スキームを構築する必要があるが、そのためには、「地域通貨の導入過程で地域の現状と地域通貨の活かすべき特性のマッチングを図る様々な活動」（吉田2012, 33）が不可欠である。本研究は、そのための手法としてゲーミング・シミュレーションを位置づけ、これまで行ってきた効果について述べていく。

2. ゲーミング・シミュレーション

ゲーミング・シミュレーションとは、特定の社会構造を役割間の相互作用のシステムとして組み込んだゲームである。本研究では、「地域通貨ゲーム」というゲーミング・シミュレーションを作成している。このゲームでは、プレイヤーは地域内部の店などを担い商品やサービスなどの売買やボランティアの実施などを行う。プレイヤーは（1）地域内外のどちらでアイテムを購入するか、（2）依頼されたボランティアを実行するかといった意思決定をしていきながら、地域経済社会の構造を体験し、その中に地域通貨を入れていくことでこれらの意思決定がどのように変化し、地域社会がそれによってどのように変容していくかを考えてい

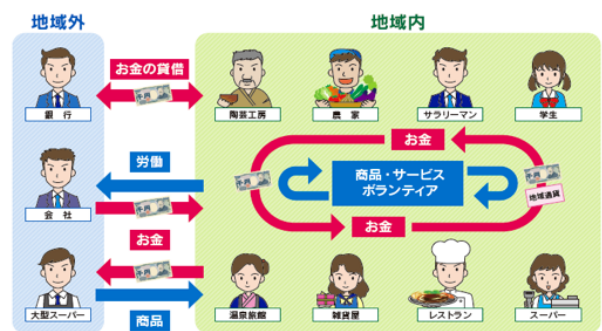


図 1 地域通貨ゲームのイメージ

* 上越教育大学大学院学校教育研究科 Graduate School of Education, Joetsu University of Education 〒943-8512 上越市山屋敷町 1 E-mail: yoshida@juen.ac.jp

くことができる。

3. 地域通貨の導入プロセスの設計

地域通貨導入を検討している地域においてこのゲームは単独で行うのではなく、地域通貨導入を検討する地域の主要な利害関係者と共に地域資源や課題の洗い出し、地域通貨の周知や理解促進、地域通貨の発行・流通デザイン策定、発行・管理・運営組織づくりのそれぞれの過程で用いていく。地域通貨ゲームを導入段階で利用することによって、利害関係者間の共通認識を形成するといった効果だけでなく、発行組織が操作可能な持続的流通条件の探索(小林・吉田・橋本2013, Yoshida and Kobayashi2018)についても検討できる。

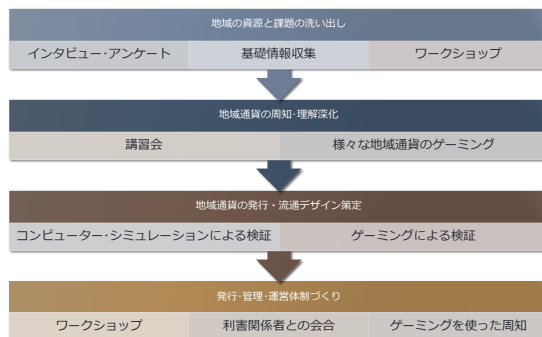


図2 地域通貨導入プロセス

4. 結論

木質バイオマス熱エネルギーの利用に関して、地域通貨によって可能なることは、木質バイオマス資源の提供者、木質バイオマス資源の利用者、地元商店、地元自治体といった4つのコミュニティを緩やかにつなぎながら木質バイオマス熱エネルギーの利用の裾野を広げていくことにある(図3)。本報告においては、それぞれのメリットを享受していくために地域通貨の流通が重要であるという共通理解をもたらす手法としてゲーミングの運用方法などについてさらに検討していく。

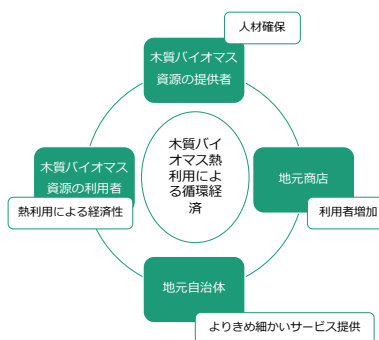


図3 木質バイオマス熱利用に関わる4つのコミュニティ

参考文献

泉留維・中里裕美(2023)「コロナ禍における日本の地域通貨について-2021年稼働調査から見えてきたもの-」『専修経済学論集』57(3), 23-40。
小林重人・吉田昌幸・橋本敬(2013)「ゲーミングとマルチエージェントシミュレーションによる地域通貨流通メカニズムの検討」『シミュレーション&ゲーミング』23(2), 1-11。
吉田昌幸(2012)「中山間地域における地域通貨導入過程における課題とその解決手法の設計」『上越社会研究』27, 31-40。
Yoshida M. and Kobayashi S. (2018) Using Simulation and Gaming to Design a Community Currency System, *International Journal of Community Currency Research* 22 (Winter), 132-144.